

令和7年度 学校評価

伊予市立伊予小学校

**【評価の基準】**  
 A：目標を達成（8割以上が肯定）  
 B：おおむね目標を達成（6割以上が肯定）  
 C：あまり達成できていない（6割未満が肯定）  
 ※ 各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

**【評価母体数】**  
 教職員 25  
 児童 327  
 保護者 226  
 地域 27

**【評価の基準・肯定割合】**  
 ◎：8割以上が肯定  
 ○：6割以上が肯定  
 △：6割未満が肯定

**【アンケートの内容】**  
 ア：たいへんよい  
 イ：よい  
 ウ：あまりよくない  
 エ：よくない  
 オ：わからない

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果(%)					
							ア	イ	ウ	エ	オ	
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣（1～3年生は30分以上 4年生以上は、学年×10分以上）が身に付いている。	B	● 家庭学習の習慣が身に付いていると判断する児童は多いものの、「もっと」「しっかりと」家庭学習をしてもらいたいと願う教師や保護者の願いがあり、肯定割合が低くなっている。 ◆ 家庭学習強調週間の在り方について、学年・学校だよりで継続的に周知して、理解や協力を促すとともに、自主学習のモデル提示や個々に応じた目標の立て方、学年に応じた学習内容の指導など、具体的な手立てを講じていきたい。	教職員	○	72.2	11.1	61.1	27.8	0.0	
		児童	◎	86.1	43.8	42.3	12.0	1.9				
	保護者	△	54.0	12.8	41.2	35.0	10.2	0.9				
	地域											
	発達段階に応じた表現力（話す・書く）が身に付いている。	B	● 表現力の育成に継続的に取り組んできた結果、考えや思いを伝える力が伸びつつあるが、場に応じた表現の仕方や書いてまとめる力の育成に課題が見られる。 ◆ 「はい」と返事をすることや、単語ではなく具体的にまとめる活動を丁寧に積み重ね、自分の思いや考えを表現する場を大切にしていきたい。また、「めあて」と「振り返り」を大切に、記録をいつでも見返す習慣を身に付けさせたい。	教職員	○	61.1	11.1	50.0	38.9	0.0		
	児童	◎	84.9	43.8	41.0	12.9	2.2					
	保護者	○	79.2	21.2	58.0	15.9	3.5	1.3				
	地域											
	心の教育の充実	道徳科の時間を中心に、自他の生命を大切にすることを心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	● 道徳科の授業を中心に、実生活につながる道徳教育の充実を図ることができている。また、学校内外で自他を大切にできる姿が見られ、肯定的な意見につながっていると推察できる。 ◆ 高齢者や障がいのある方、外国の方との交流を引き続き行い、活動の様子を全校に発信する機会を設けたい。また、一人一鉢の栽培活動や身近な出来事から、よりよい生き方について考える機会を捉え、クラスや学年で話をするよう習慣化したい。	教職員	◎	88.9	44.4	44.4	11.1	0.0	
		児童	◎	97.8	77.9	19.9	1.9	0.3				
	保護者	◎	93.4	35.8	57.5	4.4	0.9	1.3				
	地域											
一人一人の違いを認め合い、人権を大切にすることを心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	● 人権・同和教育参観日などの特別な時だけでなく、普段から一人一人を大切にすることを心やよりよく生きたいという心が育っている。 ◆ 安心して話ができる学級の雰囲気づくりを心掛ける。教師が「否定しない」「最後まで」聞き、「人を傷つける態度や言葉は許さない」という態度を常に示すように心掛け、校内で一貫した姿勢を示すことができるようにしたい。	教職員	◎	94.4	44.4	50.0	5.6	0.0			
児童	◎	96.8	66.6	30.3	1.9	1.3						
保護者	◎	90.7	33.6	57.1	5.3	0.9	3.1					
地域												
健康教育の推進	楽しく学校生活を送れている。	A	● 一人一人を大切にしようという雰囲気がある。教師も学校生活アンケートを活用し、児童理解に努めているため肯定率が高いのだろう。 ◆ これからも積極的な児童理解に努めることで、児童一人一人が個性を認め合える温かな集団づくりをしていきたい。	教職員	◎	94.4	77.8	16.7	5.6	0.0		
	児童	◎	94.0	72.9	21.1	4.1	1.9					
	保護者	◎	93.4	54.4	38.9	4.4	1.3	0.9				
	地域											
「早ね、（低学年は9時、中学年は9時半、高学年は10時）早おき、朝ごはん」の習慣が定着している。	B	● 特に早寝や朝ごはんの大切さについては、各家庭に啓発したり、機会を捉えて児童に話したりし続けているが、定着まで見届けができていないため、肯定的な意見が低いのだろう。 ◆ 生活時間について児童と保護者が一緒に考え、目標を設定したり、振り返ったりする「生活チェックシート」を積極的に活用する。また、保健だより等で具体的な事例を紹介することで、家庭と連携して生活習慣を整えていきたい。	教職員	○	77.8	22.2	55.6	22.2	0.0			
児童	○	75.4	43.2	32.2	18.9	5.7						
保護者	○	73.9	38.5	35.4	19.5	6.6	0.0					
地域												
外遊びや個に応じた体力づくり（マラソンやなわとび、アサカツなど）で健康の保持・増進に努めている。	B	● 学校では、外遊びの推奨や業間縄跳びなど、健康の保持・増進にかかわる取組をし続けているが、保護者と取組を十分に共有しているとは言えない。 ◆ 学校で行っている健康の保持・増進にかかわる取組を、学校HPや学年だより等で積極的に保護者に発信していきたい。また、保護者と児童と一緒に取り組める運動メニューを提案するなど、学校での活動を家庭での話題や実践につなげる工夫を行いたい。	教職員	◎	94.4	33.3	61.1	5.6	0.0			
児童	◎	85.5	59.9	25.6	11.0	3.5						
保護者	○	72.1	32.7	39.4	22.6	4.9	0.4					
地域												
学校運営協議会の所見		・児童の肯定的な割合が高いのは、「できている」「やっている」という児童の自己肯定感が高いからだろう。また、表現力の育成の前に、「はい」などの基本的な生活習慣を自ら進んでするということが身に付ける必要があるのではないだろうか。		学校の対応			・読解力や表現力などの学力を伸ばすことと、家庭での「学習習慣」、返事・早寝などの「生活習慣」のよりよい習慣を身に付けることの両輪を充実させることが大切である。今後も、家庭との連携を今後も図りたい。					

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果(%)					
							ア	イ	ウ	エ	オ	
生徒指導	生徒指導の徹底	自分から気持ちのよい挨拶や返事ができる児童や正しい言葉遣いができる児童が育っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の肯定割合と、教職員や保護者の割合が大きく違っている。もっとできる、もっとしてほしいという思いがそう表れているのかもしれない。</li> <li>◆ 毎朝、正門前に立って気持ちの良い挨拶をしている運営委員や教職員など、挨拶のモデルを見ることで、「相手に向けて気持ちの良い挨拶をする」ということを児童に意識させたい。また、挨拶のよさを伝えることで、質の向上を図りたい。</li> </ul>	教職員	○	66.7	11.1	55.6	33.3	0.0	
		いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育相談週間の学校生活アンケートの活用や、日ごろの教育相談の充実により、いじめや不登校の未然防止や早期解決に努めている。</li> <li>◆ これからもタブレットを活用した学校生活アンケートや教育相談を継続的に実施し、児童の小さな変化や悩みを見逃さないようにしていきたい。また、いじめ等の事案に対しては、「チーム」で早期発見・早期対応に努めていきたい。</li> </ul>	児童	◎	92.7	45.7	47.0	6.0	1.3	
					保護者	○	69.5	17.7	51.8	24.8	4.9	0.9
					地域	◎	88.9	40.7	48.1	7.4	0.0	3.7
					教職員	◎	94.4	55.6	38.9	5.6	0.0	
					児童	◎	95.3	69.7	25.6	3.2	1.6	
				保護者	◎	82.7	28.3	54.4	11.1	0.9	5.3	
				地域								
特別支援教育	特別支援教育の推進	教職員の共通理解のもと、特別な支援を要する児童について、個々の指導計画が作成され、日々の支援の記録の蓄積がなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別支援教育コーディネーターを中心に、個々の指導計画の作成や運用に適切に取り組んでいる。</li> <li>◆ 児童のニーズに合った指導計画をもとに日々の支援が蓄積されるよう、また、学級担任が一人で抱え込むことがないように、特別支援コーディネーターとともに協同的な取組をしたい。</li> </ul>	教職員	◎	94.4	38.9	55.6	5.6	0.0	
		校内体制を整え、関係諸機関との協力が必要な児童について、教師間や教育センター・施設・通級指導教室等と連携を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スクールソーシャルワーカーや通級指導担当の教員など、様々な人と相談しやすい環境づくりをしたり、困っていることを相談しやすい環境を整えたりしている。</li> <li>◆ これからも学級担任が抱え込まないよう教員間で支え合うとともに、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主事などが関係機関とのつなぎ役となって機能できる体制づくりに努める。</li> </ul>	児童							
					保護者							
					地域							
					教職員	◎	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
					児童	◎	92.7	65.0	27.8	4.7	2.5	
				保護者								
				地域								
研修	指導力の向上	信頼される教師として、一人一人の児童や家庭に適切に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師一人一人が授業改善を図り、分かる・できる授業づくりに取り組んでいる。また、保護者と電話等で連絡を取り合うことで、相談しやすい関係づくりにも努めている。しかし、1割ほど「わからない」と答える保護者もあり、伝えられていない面も垣間見られる。</li> <li>◆ トラブルや心配事などがあつた場合だけでなく、ちょっとした「よいこと」なども手紙や電話などで、保護者に伝えてさらなる信頼関係を結びたい。</li> </ul>	教職員	◎	94.4	55.6	38.9	5.6	0.0	
		自己を磨く教師として、常に学ぶ姿勢を持ち、分かりやすく工夫した授業に努めるなど、自己を向上させようとしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 校内研修を充実させることができ、日々の実践に生かすよう努めている。</li> <li>◆ 日々の授業の中で、PDCAサイクルを意識しながら、少しずつ授業改善を図ることが大切である。</li> </ul>	児童							
		協同する教師として、他の教職員とのコミュニケーションに努め、教育目標に向けたよりよい教育実践を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師同士の学び合いができている。情報交換も充実しているため肯定率が高いのだろう。</li> <li>◆ 引き続き、先生方の温かいコミュニケーション力で、学校全体を明るく元気にしていきたい。</li> </ul>	保護者	◎	83.2	26.5	56.6	7.1	0.9	8.8
					地域							
					教職員	◎	94.4	38.9	55.6	5.6	0.0	
					児童							
				保護者								
				地域								
学校運営協議会の所見		<p>・「いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている」では、児童の肯定的ではない割合が少なからずあるということや、「一人一人の児童や家庭に適切に対応しているか」の項目で、保護者の肯定的でない割合や、分からないと答えている割合がそれぞれ1割近くあることを重く受け止めなくてはならない。</p> <p>・登下校中の挨拶はできているが、休みの日の地域での挨拶や、学校内でお客さんとすれ違ったときの挨拶など、とっさに対応できていないこともある。言葉遣いも含め、児童には挨拶の習慣をさらに身に付けてほしい。</p>		学校の対応			<p>・肯定的でない割合があるということを重んじて、いじめや不登校の早期発見・早期解決に努めていきたい。また、問題が起きてから対応するのではなく、日ごろからよいことも含めて連絡を密に取り、関係を作っていくたい。</p> <p>・気持ちのよい挨拶習慣を、児童会の取組とともに広げていきたい。</p>					

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果(%)					
							ア	イ	ウ	エ	オ	
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 火災、地震、不審者等の対応ができるように、いろいろな場面を想定した避難訓練ができた。</li> <li>◆ 災害はいつどこで起こるか分からないため、学校・家庭・地域の連携は「命を繋ぐボタン」になる。学校での訓練の内容を学校だよりやHPで積極的に発信し、助け合える体制を整えたい。</li> </ul>	教職員	◎	94.4	50.0	44.4	5.6	0.0	
		児童	◎	95.9	68.8	27.1	3.2	0.9				
		保護者	◎	84.5	19.9	64.6	11.9	1.3	2.2			
	地域	◎	92.6	29.6	63.0	0.0	0.0	7.4				
	児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の方やPTAの協力を得ながら毎日児童の安全確保に取り組んでいる。</li> <li>◆ 登下校の見守り活動への協力を継続的にしていただける体制づくりが必要である。「ながら見守り」への協力を学校だよりやHPをはじめ、人が集まる場で直接お願いするなど、機会を捉えて啓発していきたい。</li> </ul>	教職員	◎	94.4	55.6	38.9	5.6	0.0		
	児童											
	保護者	◎	92.0	35.0	57.1	4.0	0.0	4.0				
	地域	◎	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0				
	環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度も修繕、整備を数多く行った。教育委員会と連携をしながら迅速な対応をしていくことができています。</li> <li>◆ 学校施設・設備に対して、「これくらい大丈夫だろう」から「もしかして危険が及ぶかも」という教職員の意識の転換を図る。また、「子供の目線」でのリスク発見につながるよう、日頃から具体的なチェック方法を伝えるようにしたい。</li> </ul>	教職員	◎	94.4	50.0	44.4	5.6	0.0		
児童	◎	94.0	63.4	30.6	4.4	1.6						
保護者	◎	92.0	31.9	60.2	4.4	0.0	3.5					
地域	◎	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0					
保護者・地域住民との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● あったかい応援団の皆様を中心に、児童の学習を充実させるためにご協力をいただいた。</li> <li>◆ 今年度も総合的な学習の時間や家庭科などの学習にゲストティーチャーとして多く来ていただいた。来ていただく方々と情報交換を密にしながら、互いに「よかった」と感じられるような、持続可能な取組にしていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	88.9	55.6	33.3	11.1	0.0	
		児童										
		保護者	◎	94.7	38.9	55.8	2.7	0.0	2.7			
	地域	◎	100.0	59.3	40.7	0.0	0.0	0.0				
	学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日々の活動をホームページで発信し、学校だよりや学年だよりで児童の感想を紹介している。学校の様子をいろいろな語りで発信していることが浸透してきている。</li> <li>◆ 保護者の「子供の様子をもっと知りたい」という気持ちをくみ、これからも、子供たちの生き生きとしている姿を届けられるように、各種たよりやホームページを充実させていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	88.9	61.1	27.8	11.1	0.0		
	児童											
	保護者	◎	90.3	38.1	52.2	6.6	0.4	2.7				
	地域	◎	96.3	70.4	25.9	3.7	0.0	0.0				
	幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保幼小の先生方が参観をし合って情報交換を図っている。中学校とは行事を中心に活動をともにして連携を図っている。いずれも児童のよい刺激となったり、児童理解につながったりしている。</li> <li>◆ 保幼小の架け橋プログラムの実施に伴い、スムーズな接続につながる連携の充実に努めたい。また、学校行事に関連させて中学校との連携を図っていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	83.3	44.4	38.9	16.7	0.0		
児童												
保護者	◎	91.6	38.9	52.7	4.4	0.0	4.0					
地域	◎	96.3	70.4	25.9	3.7	0.0	0.0					
業務改善	教職員の負担軽減	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立、調和）を意識した働き方をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仕事と生活の両立や調和を大切にしながら、一人一人が置かれている立場で仕事ができるよう、尊重し合う雰囲気大切にしている。</li> <li>◆ これからも、豊かな教育活動の充実と教職員の働き方のバランスを考えながら、教職員一人一人が自身の仕事内容と生活の調和が図られるよう、行事の精選や業種の効率化、そして、仕事内容の偏りのない組織化を図っていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	83.3	33.3	50.0	11.1	5.6	
		児童										
		保護者										
	地域											
	自己を磨き続けたり、互いに学び合えたりするなど、やりがいを感じる職場になっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教職員の「学びたい」大切にされた校内研修の充実に取り組んでおり、やりがいを感じながら働くことができています。</li> <li>◆ 一人に負担が偏らないように研修内容を精選したり、短時間でできる研修を設定したりするなど、「やってよかった」と思える機会が多い職場にしていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	88.9	55.6	33.3	11.1	0.0		
	児童											
	保護者											
	地域											
	お互い様の心を持ち、働きやすい環境（職場）になっている。（コミュニケーションが図られ、協同的な職場になっている。）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員室で情報交換が日常的に行われている。互いの長所を生かし、助け合う環境づくりに取り組んでいる。</li> <li>◆ 生徒指導的なことや児童理解、授業づくりなど、様々な課題に対して、年齢を超えた教え合いができる協同的で風通しのよい職場づくりに努めていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	88.9	61.1	27.8	11.1	0.0		
児童												
保護者												
地域												
学校運営協議会の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あったかい応援団の活動が軌道に乗ってよかった。PTAのみなさんもあったかい応援団の一員として学校の取組にどんどん参加してほしい。</li> <li>・ 「児童の安全確保、校外指導の充実」について、通学路にあるブロック塀などの安全も確かめたいところである。</li> <li>・ 「架け橋プログラム」など、情報共有の体制が幼稚園、認定こども園と取れていることや、中学校とも行事を中心に連携が図られておりすばらしい。</li> </ul>	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからも地域学校協働活動推進員とともに、コミスクの活動の幅を広げていきたい。</li> <li>・ 児童と危険箇所マップを作るなど、学校内外で安全への視点を児童とともに持ち続けたい。</li> <li>・ これからも児童一人一人に合った教育環境が整えられるように、関係機関との連携を図っていきたい。</li> </ul>									